

『なんちゃって支援からの脱皮』
～介護保険法の目的の実践に至るまで～

・・・ 生きること支援としての試み・・・

宮崎直人

今日のメニュー

1. 最近気になること、感じていること
2. 人が生きること考える
3. 認知症を生きる人々から
4. 生活の支援の実際
5. 未来を創る(まとめ)

1. 最近気になること／感じている事

50歳を過ぎた頃から・・・

あらためて

2. 人が生きることを考える

『生活を支援するという考え方』

過去に行われてきた介護？

- ◆手間が省けるからと、男性はブルー、女性はピンクの上下スウェットを平気で着させる専門職
- ◆誰が見ていようが場所さえも構うことなく、オムツ交換をする専門職
- ◆おむつを外すからと背面ジッパーのつなぎ服を着せる専門職
- ◆便が出ていることがわかっているにもかかわらず、おむつを交換しない専門職
- ◆ベットに高い柵をつけてその中に放り込む専門職
- ◆自分たちに不都合があるから薬で動けなくしてしまう専門職
- ◆外に出ていけないように、建物に閉じ込める専門職
- ◆井の中にご飯もおかずも薬も放り込んで食べさせる専門職
- ◆立ったまま、何も言わずに食べ物を口の中に放り込む専門職
- ◆できることであっても危ないからとやらせない専門職
- ◆洗髪しやすいからと男女かまわず短髪にする専門職

人の姿と認知症

- 姿の捉え方からスタート
 - どんな姿かと思っているかがその後の関わりや支援(介護・ケア)に影響する

**視点(姿の捉え方)は認識を創造し
認識は経験を創造する**

認知症とは？

厚生労働省のHP

- 認知症とは「生後いったん正常に発達した種々の精神機能が慢性的に減退・消失することで、日常生活・社会生活を営めない状態」をいいます。

WHO(世界保健機関)の定義

- いったん発達した知能が、様々な原因で持続的に低下した状態(年をとってもの忘れがひどくなり、生活に支障が出ること)。
- 認知症とは、通常、慢性あるいは進行性の脳の疾患によって生じ、記憶、思考、見当識、概念、理解、計算、学習、言語、判断など多数の高次脳機能の障害からなる症候群である。
- ごく普通に社会生活を送ってきた人が、主に老年期に慢性の脳機能障害に陥り、判断能力等が異常に低下して社会生活に支障をきたす「認知(知能)障害」です。

ウィキペディア

- 認知症(にんちしょう、[英](#): Dementia、[独](#): Demenz)は、後天的な[脳](#)の器質的障害により、いったん正常に発達した[知能](#)が低下した状態をいう。これに比し、先天的に脳の器質的障害があり、運動の障害や知能発達面での障害などが現れる状態は[知的障害](#)、先天的に[認知](#)の障害がある場合は[認知障害](#)という。[犬](#)や[猫](#)などヒト以外でも発症する。

認知症とは(介護保険法上の定義)

(認知症に関する調査研究の推進等)

- **第五条の二** 国及び地方公共団体は、被保険者に対して認知症(脳血管疾患、アルツハイマー病その他の要因に基づく脳の器質的な変化により日常生活に支障が生じる程度にまで記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。以下同じ。)に係る適切な保健医療サービス及び福祉サービスを提供するため、認知症の予防、診断及び治療並びに認知症である者の心身の特性に応じた介護方法に関する調査研究の推進並びにその成果の活用に努めるとともに、認知症である者の支援に係る人材の確保及び資質の向上を図るために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

認知症とは(介護保険法上からの抜粋)

- 脳血管疾患、アルツハイマー病その他の要因に基づく
- 脳の器質的な変化により
- 日常生活に支障が生じる程度にまで
- 記憶機能及びその他の認知機能が
- 低下した状態をいう。

認知症の本質

認知症は

複合した認知機能障害の総称。

では、何故人によって
姿が違うのでしょうか？

なぜ？

- 入浴をすすめると嫌だと断られました。



入浴拒否・介護への抵抗

しかし、こういう方もいます。

- 入浴をすすめると嬉しそうに入ります。もしくは、仕方がないなりに納得しながら入ります。

なぜ？

- ウロウロと落ち着きがなく歩いています。



徘徊・不穩

しかし、こういう方もいます。

- 安心して、自ら居場所を見出し過しています。

なぜ？

- 怒りっぽくなったり、暴力をふるったりします。



暴言・暴力行為・不穏など

しかし、こういう方もいます。

- 穏やかに振る舞います。

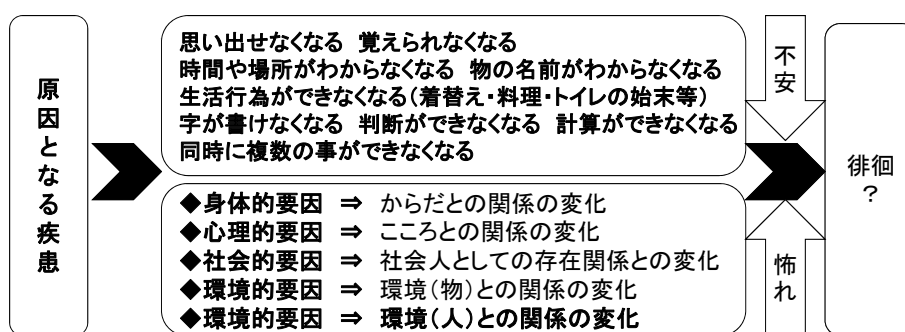
例えば、なぜ『徘徊？』が起きるのか？

認知症の状態にある人に何が起っているのでしょうか？

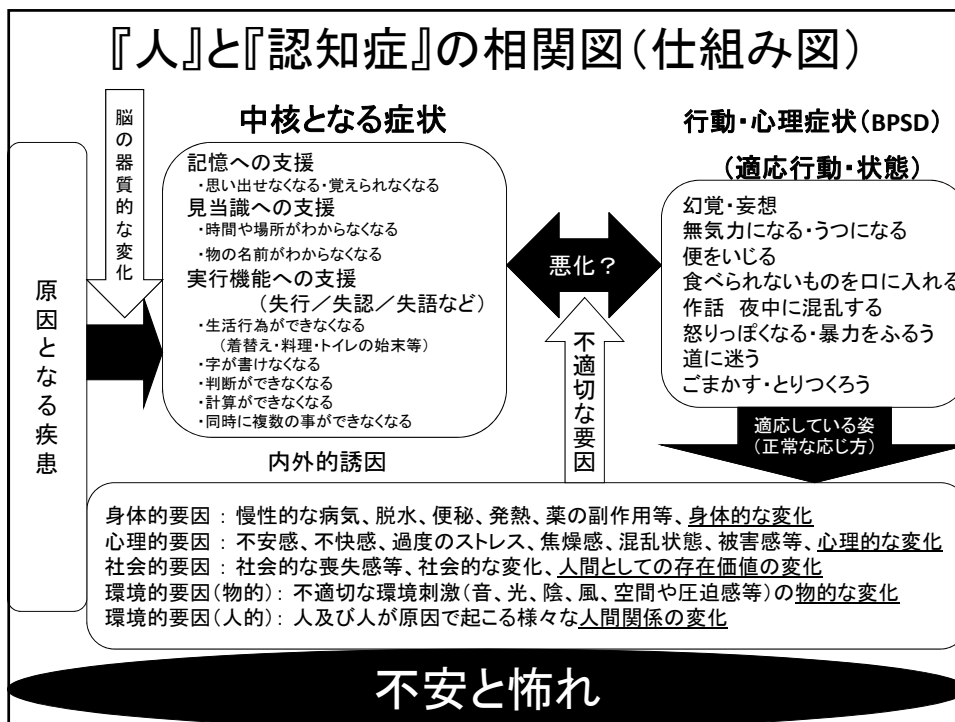
皆さん！今トイレに行きたいと思って下さい。

では、皆さんでトイレの方向を指差して下さい！

認知症の状態にある方々に起っていることは？



トイレはどこ？ ここはどこ？ どこに行けばいいの？ えっ？どうしたらいいの？
 誰かに聞こう！ 言葉が出ない！ どうしよう！あの人是谁？ 知らない人ばかり！
 知っている人は？ ここにいたくない！ ここにいてはいけない！ いてもたってもい
 られない！ 嫌な音がする！ 疲れる！ 安心する場所を探そう！ 確かなものを探そう！
 自分を探そう！ 私は誰になってゆくのか？ 自分を守ろう！



3つの『認知症ケア』

認知症ケア①

すでに起ってしまったことへの対応が主
～問題行動⇒周辺症状⇒BPSD⇒適応行動への支援～

幻覚・妄想
無気力になる・うつになる
便を拭う
食べられないものを口に入れる
作話・ごまかす・とりつくろう
道に迷う・ウロウロ歩き回る
夜中に混乱する
怒りっぽくなる・暴力をふるう

ケアメソッドとして

- ユマニチュードケア
- キョウメーションケア
- タクティールケア
- バリデーション療法
- 回想法
- etc

存在の支援のポイント『ベスト10』

人との関係の基本～5つの共(共振・共鳴・共感・共有・共同)

- ①笑う(スマイル)
- ②お互いの感情(心)を楽しむ。どんな姿であろうが、あるがままの姿と共に居てみる。(認める)
- ③ユーモアと洞察。(ユーモア／精神)
- ④予測をたてる。(予感)
- ⑤寄り添うから見守らず、寄り添わないから見守ろうとする。力を信じる。(信頼と見極め)
- ⑥互いの健康な五感を生かす。(感性)
- ⑦互いに必要とする関係を築く。(相互理解)
- ⑧彼らの世界(時間空間)を探り存在し支持する。(時間の中を動く)
- ⑨伝わるチャンネルを探す。(伝達)
- ⑩期待しない。(人間関係)

認知症ケア②

BPSD／適応行動・状態の原因を探る

～身の回りで起こる変化や出来事や環境への支援～

◆直接的な身体的な変化や出来事(身体的要因への支援)

老化、慢性的な病気、脱水、便秘、発熱、薬の副作用等への支援

◆心理的な変化や出来事(心理的要因への支援)

不安感、不快感、過度のストレス、焦燥感、混乱状態、被害感等への支援

◆人間としての存在価値の変化や出来事(社会的要因への支援)

社会的な喪失感への支援

世間の中での自分の存在の変化への支援

社会との変化への支援

◆物質的な変化や出来事(物的環境的要因への支援)

不適切な物的な環境刺激(音、光、陰、風、空間の広がりや圧迫感)に配慮する

生活環境の急激な変化を避ける

◆人間関係の変化や出来事(人的環境的要因への支援)

人及び人が原因で起こる様々な人間関係の変化への支援

法的な根拠と具体的な方策

- 課題分析標準項目(23項目)
「介護サービス計画書の様式及び課題分析標準項目の提示について」
(平成11年11月12日老企第29号厚生省老人保健福祉局企画課長通知)の別紙4の別添
- 各種アセスメントツール
センター方式
MDS方式
三団体方式
包括的自立支援プログラム
その他各種団体が作成したものなど多種多様な方式
- アセスメントをサポートするツール
ひもときシート
PEAP(認知症高齢者への環境支援指針PEAP日本版)
パーソンセンタードケア及び認知症ケアマッピング(DCM) etc

27

認知症ケア③

『生活の営みの中にある認知機能への支援を充実させる』
～認知機能への支援～

記憶への支援

- ・思い出せなくなる・覚えられなくなる

見当識への支援

- ・時間や場所がわからなくなる
- ・物の名前がわからなくなる

実行機能への支援(失行／失認／失語など)

- ・生活行為ができなくなる
(着替え・料理・トイレの始末等)
- ・字が書けなくなる
- ・判断ができなくなる
- ・計算ができなくなる
- ・同時に複数の事ができなくなる

認知機能の確認

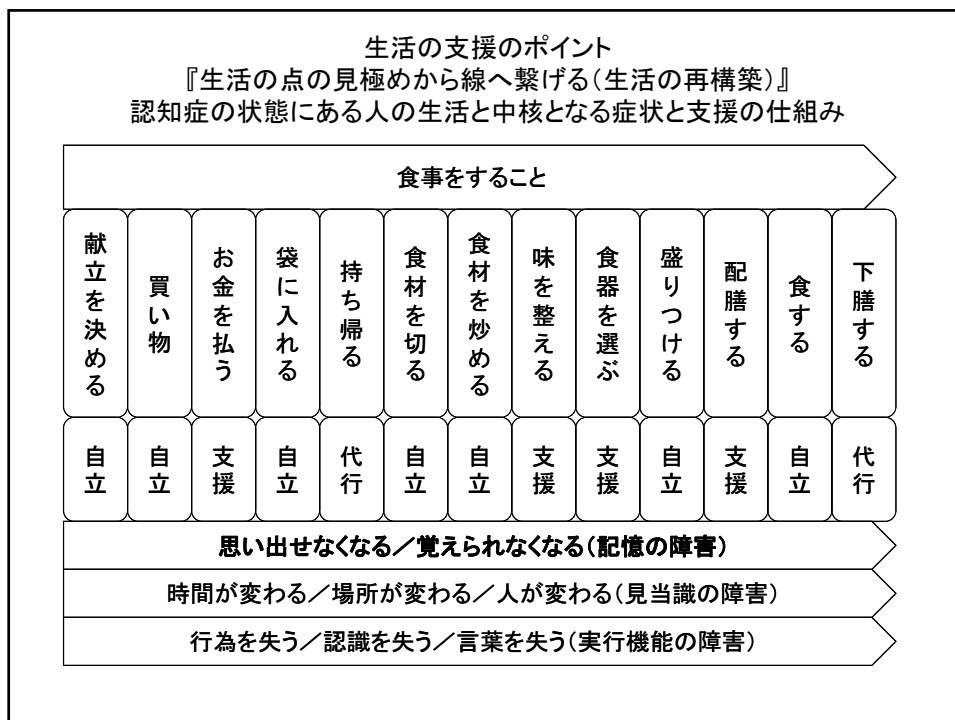
一度に理解できる語数の確認 □

- お年は、いくつですか？(2語)
- 今日は、何年の、何月何日ですか？(3語)
- 100から、7を、順番に、引いて下さい。(4語)
- 難聴か□
- 速度に問題□

そもそも理解力が促せると、自己決定の協力を得られる可能性が高まる。

生活をベースに認知機能の低下へ 支援するということは

『認知症』と『人』を理解するのは当然
その上で
生活する事に対する
備えとお膳立て(準備)を怠らないこと



『有する能力に応じること』
～自立に備える／準備する～

◇作り出す ・作りながら決める ・献立を決めずに作り出す	◇希望を尋ねる ・「何にしますか？」の問い掛けに ※「何でもいいよ」 日本の文化的思考が背景	◇前後の献立を伝える ・昨日の献立など ・最近食べたもの
◇具体的な情報を伝える ・肉or魚 ・ご飯or麺類orパンetc ※特にメイン食の情報	献立を決める	◇具体的に材料を見る ・冷蔵庫の食材 ・チラシの食材
◇複数で相談 ・ムードメーカー ・共同する力を利用する	◇情報を集める 流れを作りながら、好みを知る(過去と現在と未来)	◇買い物に出掛ける ・食材を物色しながら会話の中で決める

ある日の献立の決まり方①

献立の決まり方①

ひき肉が沢山あったので、台所にいた阿部様に何に使えばいいか相談する
 「丸めて火通したらいいんでねえか？」
 「衣つけて揚げても美味しいよー」

メンチカツをつくることになる

食材の用意と調理① ~ 共同の響き合い

1. O様が「何かすることないの？」と話されていたので声を掛け
 玉ねぎをみじん切りにし、ひき肉と合わせて丸めています

2. Y様も台所に来られO様が用意してくれたものに
 小麦粉、パン粉、玉子で衣をつけた後、自ら茶碗洗いをされております

3. A様は面会があったので一度離れましたが
 御家族が帰られたあとは声を掛け、スタッフと一緒にメンチカツを揚げております

ある日の献立の決まり方②

献立の決まり方②

あるひと言が切っ掛けで献立が変更

Y様「カツ丼になるのかな？」の発言から

スタッフ「メンチカツだけどカツ丼にしちゃおうか？」

Y様「それも珍しくていいわねー」と笑い、献立が変更になり

Y様が玉ねぎを切って溶き卵を用意し、メンチカツ丼が完成しています。

A様はメンチカツを揚げたあとはおかずの盛り付けもされております。

A様に声を掛けて味噌汁の盛り付け

Y様が自ら箸やおかずの配膳

とつながる

『有する能力に応じること』 ～自立に備える／準備する～

◇道具の用意 ・テーブルに包丁とまな板を置く	◇献立の維持／継続 ・何を作っているかの情報を何気に伝え続ける	◇食材の用意 ・冷蔵庫 ・食品庫
◇場所(環境要因)の用意 ・調理器具等の環境の見極め ・ガスコンロ使用 ・共同で行う	食材を切る	◇身体状況の見極め ・立つか ・座るか
◇切った後のつなぎ ・切った食材を調理することへと繋げてゆく	◇切る量	◇切り方(下ごしらえ) ・千切り ・みじん切り ・乱切り ・拍子切り ・いちよう切り ・薄切り ・小口切り

『有する能力に応じること』 ～支援に備える／準備する～

お金を払う	味を整える	食器を 選び 取り出す
◇道具を用意する ・お財布の用意 ・お金の用意	◇環境を準備する ・身体状況の確認 ・調理環境の確認 例) 椅子、テーブル、ガスコンロを用意する	◇選ぶ(共に行う) ・具体的なおかずの種類 ・おかずの量 ・温度 ・色合い ・形
◇会計時付き添う ・金額の確認 ・お金を取り出す ・おつり等小銭の取り扱い ・人との係わり	◇調味料の用意 ・種類の用意 ・分量の確認 ◇道具の用意 ・計量道具など	◇取り出す(共に行う) ・枚数を伝える

3つの認知症ケアの『共通』

- 5つの『共』に感性を向ける

共振～伝え合う

共鳴～響き合う

共感～感じ合う

共有～解り合う

共同～共に在る

認知症ケアの本質

認知症ケアとは

認知機能が低下しても
認知症を発症させない支援

片山禎夫 川崎医科大学

3. 認知症を生きる人々

- ①プロローグ
- ②人として
- ③予測を立てる
- ④寄り添わないから見守れる

①プロローグ

介護保険法 第一章 総則

(目的)

- **第一条** この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

介護保険法の理念

(基本方針)

「介護保険法」より

※『**尊厳を保持し**』

※『**利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むように**』

認知症ケアの切り札！ 認知症ケアの救世主！

グループホームは果たして？

生活の実際 タイプ①

- 従来の特別養護老人ホームの延長線上の生活
- サイズを小さくしたもの
- 安全を守ることを最優先
- 玄関に施錠
- 食事を提供(時々、調理等を「手伝っていただく」こともある)
- 「して差し上げるケア」が中心
- 「三大ケア(食事・排泄・入浴)」が主
- 日中は、行事やアクティビティ、さまざまな「療法」などを行う
- 大まかな生活のスケジュール(日課表)がある
- 家のような雰囲気の中かで一日を過ごす

(引用文献:宮崎和歌子著「認知症に人の歴史を学びませんか?」中央法規出版)

生活の実際 タイプ②

- 入居している人が主体である
- 生活することを支援する
- 基本は、私たちが自宅で暮らすのに近い形で暮らす
- 食事は、献立はその日そのとき、気分に合わせて入居している人たちが中心になって決める
- 自ら食材を調達し調理し食べる
- アルコールも嗜好品も自由
- 散歩や買い物に自由にでかける
- みんなで旅行もする
- 入居者同士たまにけんかもする
- 共同生活のよさを活かして暮らす
- 職員は、家事や日常生活でできないことを支援する
- 入居者同士がうまくかわられるようにサポートする

(引用文献:宮崎和歌子著「認知症に人の歴史を学びませんか？」中央法規出版)

主な論点

(認知症対応型共同生活介護について)

○ 認知症対応型共同生活介護の特性(運営基準で「利用者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるよう配慮して行う」と規定。)である利用者の役割を生かすケアを推進するための方策をどのように考えるか。

○ 酸素療法、カテーテル、疼痛の看護など重度化した医療ニーズのある入居者に対応する医療連携をどのように考えるか。

○ 夜間ケア加算について現行要件では取得が困難であるとの意見があったが、ユニット毎に1名夜勤を配置する現行の人員配置基準を踏まえ、夜間・深夜時間帯における加算による人員の加配についてどのように考えるか。

○ 制度創設当初と比較して入居者の要介護度の重度化により、備え付けの福祉用具では対応が困難となっている実態を踏まえ、どのように考えるのか。

○ 運営推進会議のあり方及び外部評価の仕組みについてどのように考えるか。

(認知症対応型通所介護について)

○ 利用者がそれぞれの役割をもって日常生活を送ることができるよう配慮して行われてきた認知症対応型通所介護であるが、今後、通所介護における機能に着目した事業内容の類型化に関する議論を踏まえ、その位置づけをどのように図っていくか。

○ 事業規模にも関わらず、「3人以下」とされている共用型デイサービスにおける現行の定員基準についてどのように考えるか。

(認知症に関連した介護報酬について)

○ これまで累次の介護報酬改定の中で、認知症に関連した加算が多く創設されてきたが、認知症要介護高齢者は今後も増加する見込みであり、認知症への対応を更に進めるためには、これらの加算についてどのように考えるか。

役割について

アンケート結果

入居者(利用者)の皆さんは
どのような役割をしていますか？
若しくは、してもらっていますか？

質問項目

所属

- 老健 5
- 特養 6
- デイ 4
- グループホーム 8
- 訪介 1
- 小規模 2
- ショート 1

(認知症介護実践研修 修了者)

入居者(利用者)は、どのような役割をしていますか？
若しくはしてもらっていますか？

順位	具体的な役割の内容	件数
1	洗濯物たたみ	12
2	おしぼりたたみ 掃除	9
3	テーブル拭き 食器洗い	8
4	食器拭き	7
5	調理(手伝い/切る・炒める・米ときなど)	6
6	洗濯物を取り込む/配膳/洗濯干し	5
7	畑・花壇作業/盛りつけ	4
8	エプロンたたみ/牛乳パックをちぎってもらう	3
9	下膳/味見/お菓子づくり/縫い物	2
10	お茶入れ/カーテンの開閉/編み物/洗車/パソコン/縄ほどき 古新聞をたたむ/レクの声出し係/職員の手伝い/知恵袋 昔話/話し相手/人生相談	1

所属

- 特養 6
- デイ 4
- グループホーム 8
- 訪介 1

(認知症介護実践リーダー研修)

入居者(利用者)は、どのような役割をしていますか？
若しくはしてもらっていますか？

順位	具体的な役割の内容	件数
1	洗濯物たたみ	9
2	掃除	5
3	食器洗い	5
4	調理の手伝い(味見・切る・炒める・米とぎなど)	5
5	盛りつけ	5
6	配膳／片付け	4
7	洗濯物干し	3
8	テーブル拭き	3
9	汚れを襲えてもらう／他の入居者を呼びに行ってもらう／洗濯物を取り込む／新聞を棚(いつもの場所)に置いてもらう／自分の洗濯物をタンスにしまう／駄菓子屋の店員(ケアハウスの入居者)／知恵袋／昔話／話し相手／人生相談／外出時のカメラ係／肩もみ／サークル活動の時の指導役／ムードメーカーなど／庭仕事／雪かきなど／牛乳パックをひろげる	1

考察

- 片付け作業が中心である
- 役割ありき
- 『手伝い』という感覚
- 認知症の中核となる症状への働きかけを意識していない⇒すべてが単発でその場限り
- 何らかの役に立っているという働きかけとしての『役割』という認識

②『人として』

メッセージ

人を知る、人となりを知る

ユーモアと洞察

『人として』見るということは 『人となり』を知ることである

『人となり』とは

- 人柄、その人に備わっている性質とは品位とか、その人の持つ内面の全てのことをいいます。
- そんな捉え方が最も大切であると、実践を通して、強く確信を持つようになりました。

『人となり』を見極める20項目

- 周囲の人への気配りがある
- 聞こうとする態度がある
- 身だしなみに気をつかう
- 自分の居場所をみつめることがうまい
- 人にもものが頼める
- 自分の意志を示せる
- 人をなごませる雰囲気がある
- 周囲の人と遊びができる
- 外出を楽しめる
- 人の使いわけがうまい
- 思い出話がうまい
- 人をほめるのがうまい
- 礼節・道徳への関心がある
- 手伝おうとする
- 表情が豊かである
- 生きいきした目をしている
- 待ってられる
- 人をひきつける雰囲気がある
- 好奇心がある
- 楽しみにしていることがある

ライブ中島紀恵子と教え子たち「老年看護の縦横な語り」
中島紀恵子、北川公子 クオリティケア より

ユーモアと洞察に関する技法

- 彼らは、その存在自体ユーモアそのものの存在だったりする。
- 彼らはおかしみを品よくさらけ出せる人
- そのことで私たちは幸せ感を味合わせてもらうことが多い。
- 得も言われぬ知力であり、時に哲学者と思わせ、時に言葉の連想から繰り出される言葉のおかしみは、とんちんかんなのに、嘘はない。
- その真実さが周囲へのビタミンになるときがある。
- 私たちにも、自分の欠点を笑ってみせるユーモア精神がないといけない。それは読解力もにぶり、洞察の喚起力もにぶってくる。

『人となり』の共有

『人となり』をどのように見出せるのかということ
を解れば、『認知症』に右往左往することなく、差別感情に左右されず敬意あるまたは尊厳ある態度と対話もできやすくなる。

ライブ中島紀恵子と教え子たち「老年看護の縦横な語り」
中島紀恵子、北川公子 クオリティケア より

③『予測をたてる』

メッセージ
予感

「排泄の場面」の例

- 夜間、オムツ交換の時間となったので、Aさんのオムツを取り替えようと訪室し声をかけたが起きない。Aさんのオムツに手を入れ確認したところ尿で汚れていた為、そのままオムツの交換を始めた。すると突然Aさんが目覚め、大声を出し、スタッフの髪を引っ張ったり、顔を殴るなどの暴力を振るい抵抗した。

なぜ？

- なぜ、突然Aさんは大声を出し、スタッフの髪を引っ張ったり、顔を殴るなどの暴力を振るって抵抗したのでしょうか？

その後の男性スタッフの対応は？

反応(リアクション)の姿

- あまりにも突然の出来事に思わず反応してしまい、Aさんの胸などを殴ってしまった。

応答(レスポンス)の姿

- その状況を事前にアセスメントできていたか？
- 業務をこなす事(オムツ交換)に重点が置かれてはいなかったか？
- Aさんが目覚めた時の反応を当たり前前に予測できていたか？

予測を立てて考え、行動する力を養う

④『寄り添わないから見守る』

メッセージ

よく見(看)ることの実践力を磨く(見守りと見極め)

例えば

- 車椅子から椅子へ移乗する時
- ベッドに横になる時
- 立ち上がる時など

同時に複数の事を伝えた場合
体の動かし方の組み立てが難しくなる人

無意識の領域に働きかけ
自ら動きたくなるような
声掛け・関わり

移乗する時は

- 椅子同士を側に置くと、どう動いたらいいのかわからなくなり、動きが止まることもある。



- 椅子同士を少し離す。
- 目的の場所を視覚で確認する。
- テーブルつたいに歩く。
- 椅子へ移乗する。

主体性
選択性
関係性

よく『見(看)る』ことは不必要な手出しをしないための支援

- ケアをしっかり企画できるまでは、ちゃんと見なくてはいけない。
- 支援は意図することができて支援になる。
- 意図することが決まれば支援のあり方をどうしていくか考える。
- 見るというのは大事な支援である。
- ただ見るのではなく、何を見るか、それを企画する目が見守りの支援という。
- 見て、読解して、環境のチェックをして。
- それなしのコミュニケーションなら、おしゃべり。ただ優しくぺちやくちゃしゃべったり、そういうのは余分なお世話。
- 意味のある支援にしたいとアクセルをふんだ時に、支援は科学的になるし、共振、共鳴モードにもなりやすい。

- 認知症の状態にある人の悲しいところは何をするんでも「へま」をいっばいすること。
- 私たちは「へま」の中にでもできていることがちゃんとある。
- そのことを評価してあげられる仕事です。
- ちゃんと見(看)ることができて残存能力の評価です。

5. 未来を創る (まとめ)

～これからの支援(認知症に備える)～
自分で備える／家庭で備える／地域で備える

認知症の状態にある人へ 生活を支援するということは

- ①認知症としっかり向き合うこと＝生活の中で起る認知症を知る
- ②人としての姿(全体像)を見極めること＝人を知る、人となりを知る
- ③知り得た『人となり』を生かし、日常生活上の行為等を見極め、不自由な生活の部分繋げること＝生活の再編・再構築
- ④もっと広い意味での生活環境へと繋げてゆくこと＝地域社会との繋がり

『認知症』と『人』をよりよく支援するための 5つの尊厳と3つの原則



「目を開けて
もっと私を見て！」

イギリス ヨークシャー
アシュルディー病院の
老人病棟の奇跡

『生きること支援が私たちの仕事です』

アウル

参考／引用文献等

- ◆介護保険法
- ◆『知っていますか？レビー小体型認知症』 小阪憲司著
- ◆『老年看護の縦横な語り』 ライブ中島紀恵子と教え子たち
中島紀恵子・北川公子(編)
- ◆特集 手づくりのデイサービス
痴呆性老人のデイケアにおける
「生活健康スケール」作成の試み 中島紀恵子
(生きいきジャーナル 第4巻 第3号 1994.8.10発行)
- ◆認知症の理解と疾患別ケア 加藤伸司 (2014.8.23 北海道認知症ケア研究会 第2回研修会資料)
- ◆「レビー小体型認知症の世界を共に」北海道認知症GH協会実践研究大会口述発表資料(河合千穂 宮崎杉子 篠田茂雄 加藤正之 菊地美里 伊藤豪 伊岐美順子 宮崎直人 2014.9.15)

ご清聴を感謝いたします ありがとうございました

- ご質問などがございましたら、下記へご連絡下さい。

〒052-0014
北海道伊達市舟岡町337-1
グループホーム アウル
Tel 0142-21-1680
Fax 0142-21-1682

〒059-0026
北海道登別市若山町3丁目8番地45
グループホーム アウル登別館
Tel 0143-88-3335
Fax 0143-88-3336

〒052-0014
北海道伊達市舟岡町340-14
デイサービスセンター アウル
Tel 0142-21-1150
Fax 0142-21-1160

総合施設長 宮崎直人

メールアドレス: owl0907@aioros.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://www.gh-owl.com/>